



朝夷巡嶋記全傳卷之五

東都 曲亭主人編輯



初輯第九

朝靄乃庄司暇
夕立此許我郷

阿三郎ホが住ひぬる大儲の浅江下り。船堀圖内が宿所まど。十八九町が程は
まど中間は庄司暇ある。大儲の和名鈔圖郡の部はつゝえて朝夷郡あり。
今の定うるぬや地名も今昔の差別あり。道路も又ちちかへて
推しめぬ船は刻る類といひ。かくて阿三郎は船堀の母を
さうせし今も後世に千日菴へ赴きてまど船堀を警べ死後眼代宅地へ
ハゆたし船堀ホを警べ死後と且く門傍に立在り又つくとまゆやう。鏡々
起つて池仏のまども又の枉死ハ船堀が残酷の筆楚ふよとあり。あまふ日さへ

月三ノ口編

敵る。つら。うち。のち。おん。あつ。う。み。え。さ。敵る。圖内を襲ふ。後小つを託し。は。あ。復ん。あ。う。う。く。と。肚裏の毒思。

瞻仰。若。山。梢。を。あ。さ。さ。さ。升。は。北。日。ま。中。の。月。の。暈。さ。さ。さ。い。く。い。く。の。目。

道。ち。ち。え。の。鳴。杜。鵲。眞。土。と。婆。婆。の。二。親。を。う。け。て。ぞ。憑。む。神。仏。の。眞。助。利。直。と。

祈。念。し。く。歩。の。運。び。我。い。そ。が。せ。る。庄。司。嚙。我。を。や。過。て。雙。言。の。宅。地。小。近。つ。た。ん。築。垣。の。

刃。を。倚。て。内。の。中。を。我。窺。ふ。又。門。率。の。寝。ど。や。あ。る。と。けん。窓。の。隙。より。火。光。漏。り。折。り。

うち。う。た。は。る。是。さ。増。し。多。海。滴。入。る。隙。を。求。め。く。背。へ。遠。り。く。竊。ひ。ば。後。堂。に。お。

る。は。べ。い。九。世。琴。の。あ。ら。を。幽。ゆ。り。く。髪。り。み。人。の。笑。ふ。声。を。さ。さ。さ。り。時。る。早。を。

け。り。と。あ。ふ。と。く。怪。し。め。ら。れ。さ。ん。且。く。退。れ。く。更。は。我。を。こ。ん。と。浅。江。の。か。さ。五。

六。町。立。う。へ。前。面。も。も。里。人。と。あ。は。れ。た。め。の。西。二。人。は。立。立。く。うち。相。撞。つ。ま。ふ。け。れ。が。

こ。は。我。認。ま。け。り。の。ゆ。や。と。あ。く。の。口。一。條。を。揮。ひ。な。さ。が。避。け。ふ。う。は。さ。い。く。為。

忙。く。あ。く。と。道。次。よ。い。と。ぬ。ま。く。片。康。多。く。あ。る。と。は。さ。あ。なる。堂。あ。る。と。け。り。

且。く。さ。く。と。ま。き。と。懸。ま。く。路。を。く。人。我。遣。る。と。小。被。亦。ハ。浅。江。の。こ。か。く。る。深。澤。乃。莊。

客。あ。る。と。この。日。眼。代。の。夫。役。と。さ。さ。く。夜。を。す。い。り。て。還。る。と。お。り。く。人。跡。ハ。漸。々。小。

後。と。あ。の。は。た。り。我。ゆ。い。し。も。時。を。や。け。さ。か。籠。り。あ。く。さ。い。く。月。影。ハ。奥。に。さ。さ。

よ。く。こ。ん。ど。本。尊。ハ。石。の。不。動。の。り。その。と。我。阿。三。郎。ッ。さ。さ。く。こ。れ。ハ。年。来。日。本。よ。ま。

この。明。三。の。ゆ。ま。い。我。ハ。幾。遍。と。た。く。廻。り。し。も。有。數。あ。ま。ひ。企。て。ま。あ。り。よ。ま。

あ。ら。う。と。小。苦。死。と。ま。の。神。宿。と。世。給。ゆ。り。る。の。故。あ。ら。う。今。宵。ハ。さ。さ。立。志。の。人。

仇。人。と。相。替。え。ん。と。つ。や。く。さ。ひ。ひ。さ。さ。た。不。動。ハ。釈。如。と。さ。大。日。る。日。ハ。陽。徳。の。

母。心。と。萬。物。さ。さ。小。よ。ら。く。成。就。を。降。魔。の。利。劍。博。の。宗。像。見。の。又。も。俱。利。迦。羅。の。

裕。と。し。ひ。恰。と。し。ひ。の。明。王。の。權。護。と。う。へ。仇。と。替。り。と。中。と。る。と。る。人。武。ハ。原。の。の。

像。ハ。日。本。武。尊。ハ。右。心。小。持。と。せ。ら。る。又。ハ。草。薙。の。劍。ハ。小。持。と。せ。ら。る。の。ハ。列。の。

この。尊。東。征。と。駿。河。國。と。く。あ。ま。い。せ。と。死。暴。夷。と。も。以。持。ハ。假。托。射。と。透。り。き。り。

叢火を放く。火攻んとしり。尊の腰より燧火さす。むらひ火を焼つて十束の
 所へ引抜えて草茂薙ひ。その火の仇のくみ移して来とみ。燧火を
 因て件の宝剣が草薙と名つけたり。このとをの侍安をす。ふ摸り。上は
 祭所なる橘媛の神のむく。この神祠を建てし。神體不動。似させたり。
 彼本地なる大日と日本宮の日と相ゆる。本地垂迹の義をわけて。今も不動と
 唱る。これ満祿寺のあり。と。師の夜話。又。日本宮の弓箭の祖。これ
 亦。門の守護神。神仏そのま。思ふ。何。今。又。冥助の外。皆を
 以て。ひく。斬く。仇を。せ。多。と。丹精を。抽。祈念。時。を。う。ひ。み。を。遠。寺。乃。鐘
 声。幽。又。貸。え。と。や。子。の。時。は。り。今。も。比。さ。べ。と。く。外。面。へ。も。さ。ま。ま。が。
 の。程。め。天。結。陰。く。月。の。鏡。も。え。さ。ら。る。り。や。く。夜。更。を。る。り。け。り。か。て。入。船。堀。が
 門。前。へ。の。ゆ。り。く。り。又。更。中。の。音。の。琴。の。音。の。や。り。も。と。く。ゆ。り。く。り。又。笑。語。の。声。終。る。

時。一。の。夜。を。明。さ。再。と。志。の。ひ。よ。う。と。難。い。く。よ。せ。は。と。お。り。ひ。ね。い。は。
 ち。頻。早。い。今。さ。ら。に。術。を。と。り。暗。に。刃。を。屈。く。仇。の。睡。を。候。て。と。り。
 借。れ。世。夜。の。夜。と。く。又。由。由。せ。長。櫃。を。一。荷。り。て。燈。火。を。入。打。擔。入。声。よ。く
 牙。を。商。入。が。音。を。み。め。と。り。や。同。酒。も。と。り。け。つ。眼。代。が。宅。地。の。辺。へ。過。り。よ
 ち。ん。門。率。の。窓。の。戸。を。細。中。に。引。開。く。こ。や。く。と。さ。ら。ら。ら。と。音。を。た。た。か。せ。と。り。こ。り。こ。り
 あ。ま。り。過。ぎ。て。よ。の。が。音。を。き。き。け。り。と。り。や。燈。火。も。烏。夜。の。螢。と。遠。離
 じ。が。ら。あ。の。を。と。り。魚。燥。く。彼。耳。ろ。う。奴。が。今。宵。喚。び。て。立。居。る。酒。物。と。罵。つ。く
 遠。く。や。あり。を。樞。戸。を。推。開。し。身。を。横。さ。る。に。因。り。て。出。で。し。こ。り。こ。り。と。り。こ。り
 る。が。ら。一。所。む。ら。と。追。蒐。り。阿。三。郎。の。光。景。も。と。り。も。際。を。わ。り。て。神。明。に
 院。の。冥。助。と。さ。ら。ら。祝。し。て。件。の。奴。隷。を。遣。り。し。つ。つ。橋。ひ。入。る。に。前。面。を。入。江。所
 へ。入。り。障。子。の。内。に。鮮。明。の。燈。火。の。光。を。入。左。の。う。ら。へ。庖。漏。と。お。し。折。續。り。

女はいそぐ莊客の面を織るのりふたがこの密計行せん箇様とゆせよ
 うーと示させぬふらふら分ゆく。平群洋平と名告り。豊六が宿所へ赴死と申す
 けり。就一と申す。叶はさるるがたよく志あり。と鼻鳴呼ゆるせ。純仏をゆめあせ
 嘆息し。あつとといへども今更ぬ。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 間ちる浅江村はあり。刀柄むらさきせぬ。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 と申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 相撲とりを申しひらべん。大童あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 開と申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 と申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 鼓と申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 しが大人が豫よりと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 かくへいゆたて。五六日あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 り遠く親ゆと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 と申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 けり。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 あり。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 三郎あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 彼切平あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 銭を贈り。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。
 殺し。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。あつと申す。

口誦六

冥助るふれと多入臆く塵浄しりく。狸子のく成違持し力の鞆成濕候とく。
志くぬ佛の名を汚き純仏たるく。この比の夜の短下は丑三六たる過つらん。
靴の假寝あそびと鞍臥房へ入らせらひ後といふは圓内へ起る母のゆる愉く
酔ゆる子ともらとめえく寝よ。あみく休めと服挿の刀を取くたちあふ。
前面の障子を蹴りて跳入る阿三郎又主後齊一驚馬とく。その狼藉あま
何れぞ不覚又命を捨めあつる半熟の偷見らん。といひせも果は信と疾視奸
賊と。立るささしそ酷吏の虎より暴一といふ古人の言を誠は故わし罪あう
去く獄舎又整れ非法の呵責ふ余成限せ。豊六がやうの阿三郎又藏ぶらや
人汝指て賊といふ汝ホテを民と掠れ仏を賣く。施物成促と山頂衣冠の偷見るを
日は五七日旅寝し。あま立入る舊里の親の枉死の女僧純仏と眼代圓内かま
悪の謀ぬあはしめり。ゆめぬ要時ゆめぬ。いふくは成戦んとく。酒び入り
彼れらうは汝ほう向きなり。伎倆のさへく果の彼由此も腕さんや圓の高あけけ
御親のるは舞成舞。又と受よと罵るの圓内の子共と切平木は目注して冷
笑ひ土百姓の子の分際く。威徳領主めむと吾侪成。仇と一寛の蟻帳の谷
のく車めむらんか如く。むむくも鳴呼る白物は臆くさへ移とて今も後か
切平決め組んとよ。然引つけく。西子小衫上搔魁と一反あまる。投退す不件の一
入の礫は打とく。要時の起ゆるまけり。船堀親子のく方勇力ゆき。成揮て進
ゆる頼み人成ゆらるる。阿三郎の憤鼓と俱利迦羅の刀引接く。圓内を目けく
飛ゆる勢ひ。管のく。有勢の親とせとく。小頼太小玲二遠く
筑紫琴筑指ゆら。遮り留めく。あろとも小刃を見アと。技ありせ。二合戦
治の圓内の子共。成せとて。力をうち揮力と戮く。鋼を削。奮怒。突我阿
三郎。三方。敵。受く物ともせと。作が侍人。鞍馬。八流。秘。秘。を。く。て。電。光

刀偏長上

一、

石火と閃き刀尖を柱と爲船堀親子の小髻肩先淺獲四五人刃負ぬゆるくや
 受大刀ふるりし一が逃迷ひする純仏の脱きくくもひえ阿三郎の後方より
 度小腔又組著る彎倒さんとあつとと野中お立馬老松を抱く舟中
 見と動まともあつとひば放る逃人とた居る阿三郎の足次飛一と後さる
 礮と蹴る蹴るど若と叫びあつと純仏班を板齒を脱し鼻とあがつと澤と
 流る血血の煎蘇枋の樽滾る箕子と篠竹又異なるを親子のゆき大刀さち
 乱まると逃巡と居るもろが阿三郎の猛虎を駈る群羊と逐ふとく頼り不遠と
 小頼太とたつとむんと破仆し又さ刀小園内が眉間を刀尖おく丁と破る灸
 所るを不娶時ゆゆは尻居小撞し倒る我足下小楚と蹂躪し驚愕劇は
 小玲二が刃之憂哩と敲落しと左身伸し搔鯛を矢声をうけと投し小玲二の
 とがえり柱小鼓残るち確と腦液出く死でけり又彼切平決ぬハ大力又投とと
 一旦息の絶しととも辛くく死るのどろた刀小不あつと節痛と痛
 縮アて。外へうとあつとと陽滅志とぞいりける阿三郎のめを尻目
 おけと躡居る園内と些も動せと引提と血刀のくその鼓残るち敲死奸賊
 天舟多ひさるやよ小四郡はまと居るの是則民の父母又その主小代は居る
 はがぬる民のるは嫁母ともいふべり賭賭我殺とく非法を行ひ公道と藉く
 私欲我欲ぬ良民を虐げ幸なき我殺を何ぞ民の徐母わち皆死白の脱ふ
 臨と今やと猶遅るびや冀の養又精霊の向受と二熱の苦
 散り夏弥陀仏とと唱る會う居るの頭を覆石ととち驚
 引く。綱と敗るととる蜘蛛の正とと足次張る尻と高く飛忙を遊人とと
 阿三郎の跳懸る項とち解る横地と引とえ賊尼かとも死をおる
 起つと汲ぬあつと外へとと脱んや善ぬめらるる善報あると悪ぬめらるる悪

縮アて。外へうとあつとと陽滅志とぞいりける阿三郎のめを尻目
 おけと躡居る園内と些も動せと引提と血刀のくその鼓残るち敲死奸賊
 天舟多ひさるやよ小四郡はまと居るの是則民の父母又その主小代は居る
 はがぬる民のるは嫁母ともいふべり賭賭我殺とく非法を行ひ公道と藉く
 私欲我欲ぬ良民を虐げ幸なき我殺を何ぞ民の徐母わち皆死白の脱ふ
 臨と今やと猶遅るびや冀の養又精霊の向受と二熱の苦
 散り夏弥陀仏とと唱る會う居るの頭を覆石ととち驚
 引く。綱と敗るととる蜘蛛の正とと足次張る尻と高く飛忙を遊人とと
 阿三郎の跳懸る項とち解る横地と引とえ賊尼かとも死をおる
 起つと汲ぬあつと外へとと脱んや善ぬめらるる善報あると悪ぬめらるる悪



仇討
誰を討
庄司の
黎明

朝東村録巻五

河三郎

河三郎
巻五
四

報あつて人殺せし又殺さる。輪廻心報の正なり。汝が常よりとてあか乃下く
 なるべしと罵り糞を引起せし神仏八目も口も血塗る。手を合し項を縮め
 牙を戦し。哀れや大牙神して。あまのり人といふ声と共し頭は落しけり。こゝ
 隙は稍四段と述る。切平決めを遣り色もさきと等とゆふ。阿三郎が一声の二人の
 耳を刺して。青松小塩を被さし。あまのり人といふ声と共し頭は落しけり。こゝ
 再び述んとす。阿三郎は霹靂の落るごとく。飛掛て木偶ると引提る
 正く。汝がめ小投之と。國內が死骸の母とす。推さるや。切平。汝の主の悪を賣て
 民の脂を絞とり。阿三郎の罪を顧む。仏を賣て俗を惑せし。母の隠隠小つら
 ぬつと。とさく私情と披き。華もつた。こゝは又我倦まど。小むじびて。竟に獄舎小つ
 らひ。報ひいふ。小速く。父の苦痛を今す。あひまをせん。と敦團あつた。刀を
 肉に刺し。右腕を切り。女且く苦痛を忍び。こゝにせん。かう。汝
 によろし。とのひ。磯と蹴倒せし。鮮血濃と瀆り。栗酒の樽の吸子ども。挿つ。血共
 共み。刀の下は伏せ。決め。魂を。酔る。死せ。歯が如く。齒の根え。あつた。戦と声
 高。神仏を只顧。祈念。阿三郎。冷笑。神明。仏陀。善小。與。極
 悪の。入。阿三郎。期。及。何。我。祈。汝。主。の。密。議。を。兼。て。平。群。其。平
 といふ。復。號。こゝに。我。階。こゝに。己。が。悪。古。我。誇。自。小。口。こゝに。は。我。竊。せ。ん。あ。ん
 へ。死。奴。あ。ん。の。主。の。黄。水。の。俱。我。く。阿。魔。の。廳。を。開。せ。と。罵。り。青。松。小。塩。を。頭。に。刺。す。又
 小。玲。二。赤。が。頭。を。刺。す。袋。を。引。ち。ち。ち。阿。三。郎。の。首。級。我。に。と。り。て。又
 件の。棚。を。棄。ち。刀。尖。を。の。り。傍。の。壁。へ。

酷吏。啖。民。其。暴。甚。於。豺。狼。然。尚。迷。刑。書。賊。尼
 惑。俗。其。妖。類。乎。狐。狸。而。弥。見。導。信。父。因。茲。枉
 殞。母。依。此。凋。落。雖。怨。慙。斷。腸。無。由。告。訢。官。遠

而民情不通。缺望蹉跎耳。豈忍崇警哉。憤然
磨刀報怨。雪恥俟罪於寒。御之外。官使不曉
問誰六頭當開口。荅淺江河二郎。

と書す。入るる刀の切平。或は招死。いふ賊僕。且て或は。や。さ。六。眼。を
ど。か。ん。といひ。ひ。腕。を。引。揚。上。せ。て。頭。を。落。し。て。も。柳。ふ。る。ふ。と。て
夾衣の裾を折之。刃の鮮血を推拭す。さ。づ。か。ず。輕。く。被。せ。て。燭。燭。ん。と。て。忽。地。暗。く
庵漏のく。鶏。啼。く。や。曉。は。さ。ら。ふ。け。り。固。り。さ。ら。ん。母。屋。へ。退。く。隔。を。な。れ。さ。ら
便室より。い。は。さ。る。き。奴。婢。亦。さ。ん。文。注。所。の。ほ。ろ。と。い。ふ。船。堀。が。野。兵。亦。も
よ。り。然。る。り。や。の。り。に。さ。る。阿。三。郎。の。い。ふ。ま。ま。の。親。の。仇。人。を。讎。し。て。縁。頭。と。い。ひ。と
花。を。ま。ま。度。門。も。ま。ま。去。去。ふ。さ。ら。ふ。く。不。憚。り。初。め。入。る。角。門。の。簷。下。に。立。離。く
と。い。ふ。が。お。あ。い。は。す。阿。三。郎。推。用。と。い。ふ。門。卒。駭。然。先。岸。破。と。起。つ。六。尺。あ。ま。り。の。程。の。棒。杖。杖。三

癖者等と。い。は。し。け。り。や。外。面。へ。出。り。け。り。阿。三。郎。が。追。葛。ま。り。打。倒。さ。ん。と。閃。く。と
棒。を。外。へ。く。大。地。を。撲。せ。又。振。あ。ぐ。り。木。槓。と。い。は。す。棒。を。奪。つ。く。向。腹。に。拂。つ。奴
隷。へ。郎。を。逆。さ。る。小。門。の。ほ。ろ。と。い。ふ。大。瀾。へ。泥。水。を。火。と。墮。あ。る。疼。痛。と。盡。け。ん
阿。三。郎。の。う。ち。笑。ひ。棒。を。も。瀾。へ。投。棄。す。甲。夜。の。祈。り。不。動。堂。の。ほ。ろ。と。い。ふ。ま。ま。で
吹。り。ま。る。堂。内。へ。進。み。入。り。明。王。を。や。特。と。斬。く。仇。を。報。せ。し。威。神。力。を
謝。り。す。り。の。久。後。の。り。さ。ら。丹。精。祈。請。他。の。も。た。く。某。日。時。を。ぬ。く。圓。の。為。に
ち。ろ。成。盡。し。功。成。り。名。遠。く。一。郡。の。ね。と。も。さ。ら。ふ。さ。ら。し。く。遂。に。地。を。領。せ。し
さ。ら。と。い。は。し。の。隨。は。堂。宇。が。修。覆。し。存。らん。さ。ら。と。い。は。し。又。さ。ら。小。瀧。の。り。を
さ。ら。め。成。ち。と。誓。ひ。終。り。躬。を。起。し。お。ん。と。さ。ら。い。の。程。あ。る。追。葛。ま。り。の。船。堀。を
野。兵。四。五。人。不。動。堂。の。左。右。伏。し。張。ひ。を。さ。ら。阿。三。郎。が。出。る。然。る。り。中。の。遣。り
り。ろ。声。を。け。く。雄。雌。も。よ。り。楚。と。組。む。組。む。さ。ら。小。瀧。を。り。躬。を。沈。し。く。埋

鮮死抗の春は双方有一瓦は落る落るの如く一人の石の陣も盤一入の樟の伐株も

投げられ骨砕け吐ひもあざむ死にけり。さらば是も由あるまじきまも搦捕んと

隙に勢を離れ阿三郎が引抜く刀へ明王の神威のいさまた俱利迦羅丸

兵を縛の素朽く西入矢度一破倒さる。残るひとらる赤猿を肩より逃入る。

前面より葉も紙送る著。曉うけくぬり其の一二のあり照らすを焦火抗く信と

阿三郎軟上鳴るる。二三阿爺軟怪我志ある。さうらゆるとと焦火を

口小衝く衣の裾を折し股も迷ひ入る。憎ら脱んとし馬殿兵をそが修楚と

駢まえて母川のうらりと目物る。こぼるるの残念はまもどく。迹さうはほじく。

奔せくといそぎ廿六天の生憎の明鳥及哺の孝小母のる。想像々阿三郎の

思人は二言の謝射も暇るる。道は往方さうさう子の濱の津とさうて走まら

る。阿三郎の三郎のまを数十町豫る水行成る。さうて件の浦辺ふまふけり。

辰の比ぬるる。と幸うと霜う。尺の間とさうとさう。はははははははははは

おら。浦入の朝霧の暗る。森もちて舟をさうとせん。さうもたは彼此と津を求めて

ゆたよとれがゆり。磯馴松とせだもさう。漁舟ある。夜細く久せこや。

舟の中割籠ある。番の内さう。雑魚もは曲突く折焼く。此まを煙りさう。

湯さ沸く。漁又の四下とさう。阿三郎のこれ幸ひと遠く。鏡引解る。舟は

閃々と無無の楫を操る。乗ぬ。朝霧暗る。順風は延帆揚る。走る。この

時にく。餌はさう。件の割籠を投る。さう。此の飯あれ。これと盡して

餓不充の管楫は取ら。隨ふ舟の細小。さう。とさう。追風をりけり。

その日の暮。下瀧る。行徳の浦。さう。舟と乗棄る。その夜。官

屋小宿と投り。寝る。さう。来。さう。とさう。とさう。園内を親乃

仇人。さう。三郎の眼代。さう。志。さう。主。後六人。さう。走。さう。

ころ後難はとまれりくまれり。ころころ母のこなり。豫く往方と定めむとよ
 別れけし。何処に立在何。四二俣。再會せん。ころころ苦死ひとつ。又彼思
 人三阿爺。勸こころ。死。延さん。と。圖。文。三。敷。在。我。柱。久。連。係。其。為。こ。り。や
 あん心苦死。二。ころ。加。以。健。田。大。人。二。年。老。疎。濶。の。罪。我。も。勸。解。を。況。や。家。の
 艱。ころ。迹。濁。を。大。踏。の。江。の。雁。の。翅。も。終。く。別。れ。我。告。さ。り。死。を。苦。死。二。こ
 かん。ころ。あ。れ。ども。古。の。賢。人。の。言。の。多。ふ。六。信。ハ。信。る。は。又。大。切。ハ。細。謹。を
 ころ。ころ。と。い。ふ。と。あり。命。あり。時。あり。志。成。り。と。い。ふ。と。十。鈞。の。く
 一。毫。二。報。ん。と。い。ふ。と。易。かり。大。丈。夫。と。い。ふ。と。女。と。い。ふ。と。執。我。と。い。ふ。と。志。我。激。して
 ころ。結。朝。行。徳。の。宿。を。き。く。この。日。より。萬。里。の。客。と。る。や。ぬ。れ。ども。路。費。と。も
 ころ。ころ。京。滌。倉。ハ。俾。あり。て。舟。を。立。た。ふ。不。便。なり。春。衡。既。亡。び。と。い。ふ。と。も
 ころ。陸。奥。の。く。と。威。徳。と。い。ふ。と。武。士。ハ。あ。れ。い。か。れ。と。い。ふ。と。い。ひ。決。り。と。武。死。下
 縁。の。封。疆。ち。の。隅。田。河。の。上。り。か。す。け。や。當。下。又。も。ち。曩。あ。る。母。の。名。代。み。淺。草
 寺。指。つ。觀。世。音。こ。ね。だ。り。や。世。その。甲。斐。又。も。死。に。似。し。と。い。ふ。と。親。の。枉。死。を。と。り。せ
 ころ。夢。中。の。示。現。ハ。今。さ。る。靈。驗。と。い。ふ。と。い。ふ。と。又。母。の。こ。れ。又。祈
 ころ。と。い。ふ。と。觀。音。堂。へ。奉。指。し。あ。は。早。と。い。ふ。と。千。束。の。あ。わ。り。と。い。ふ。と。の
 夜。と。明。し。急。ぬ。旅。も。夏。の。日。れ。と。長。け。と。い。ふ。と。次。の。日。ハ。三。四。里。の。路。試。ま。り。て。許
 我。の。御。ま。ぐ。ま。つ。と。死。日。ハ。暮。る。ん。と。い。ふ。と。天。結。陰。々。立。の。雨。さ。と。降。と。い。ふ。と。こ
 輪。の。崎。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。と。せ。ん。家。も。あ。り。と。い。ふ。と。直。と。ま。ま。は。い。と。い。ふ。と。備。え
 白。屋。あ。る。と。い。ふ。と。稚。枝。と。離。宮。か。し。と。片。折。戸。ハ。鳴。子。と。附。り。と。い。ふ。と。且。く。朝。人。と
 ころ。と。い。ふ。と。呼。門。あ。る。と。推。用。と。い。ふ。と。音。と。い。ふ。と。人
 ころ。と。い。ふ。と。同。河。三。郎。ハ。縁。起。ハ。隻。舟。を。か。け。く。懇。懇。と。い。ふ。と。人
 奥。の。か。く。と。い。ふ。と。執。と。後。ハ。旅。上。袋。も。ぬ。れ。と。い。ふ。と。雨。と。追。と。い。ふ。と。走。り

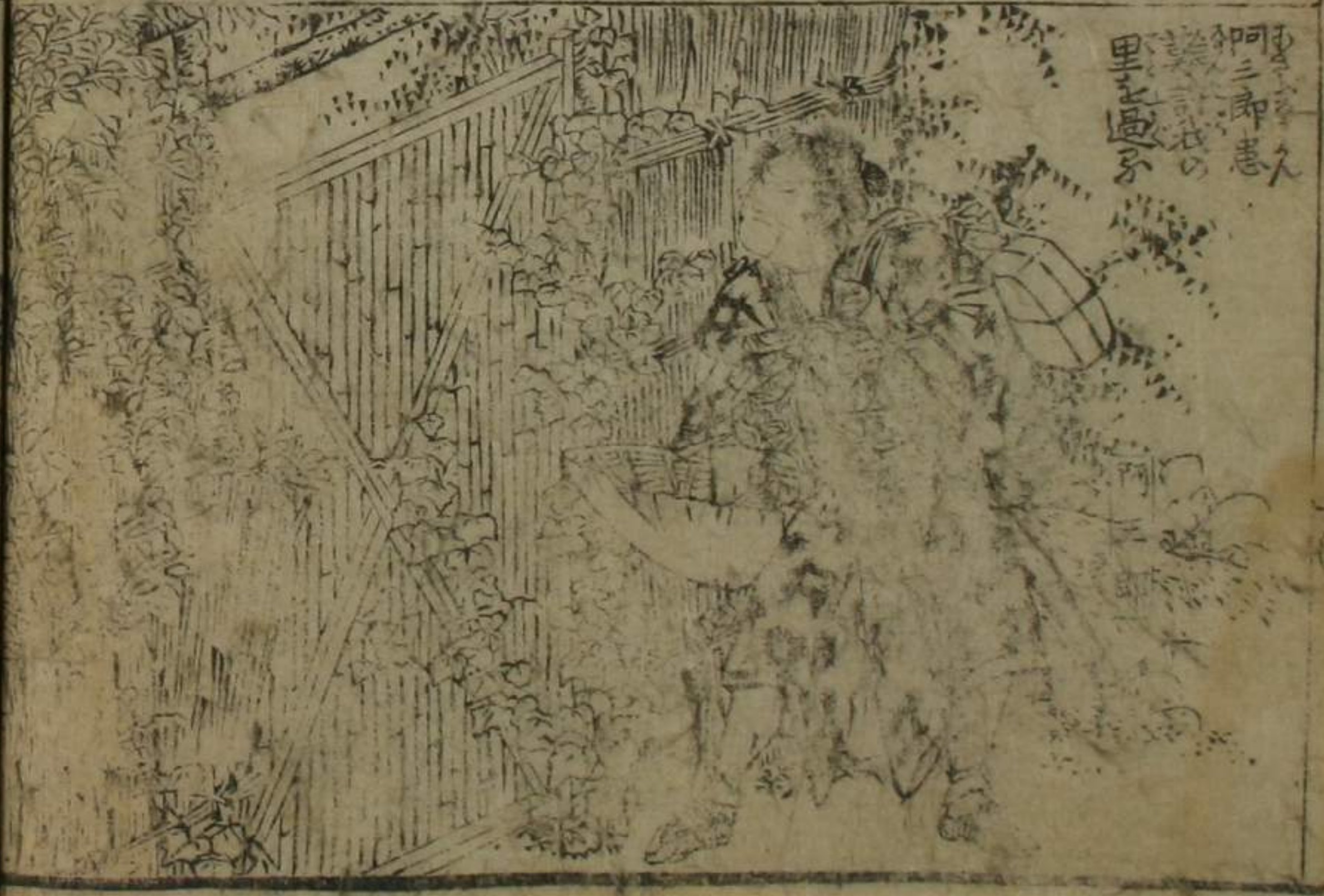
入りて。鞍馬の山に於て。時着下を貸し多し。ついであつた。躬成起。よて。不便の
ふふ。ん。夜。濡。じ。あ。り。ま。や。さ。ら。の。入。り。く。憩。ひ。多。人。の。ひ。り。借。子。を。け。け。く。
送。は。面。成。う。ち。あ。へ。阿。三。部。あ。ら。ぶ。る。致。健。田。の。大。人。映。さ。り。く。つ。ふ。あ。ひ
あ。け。ご。と。む。あ。つ。ふ。る。何。疑。ひ。の。釋。さ。ま。け。り。

初輯第十
旅宿るがた乃元服
大石山に遺弓

却。鏡。健。田。秀。作。の。阿。三。部。を。勸。ま。す。草。鞋。を。脱。せ。母。屋。又。誘。引。ら。る。夾。衣
と。し。ま。し。出。て。濡。る。衣。と。更。さ。る。所。親。切。む。し。ふ。亦。多。し。移。り。阿。三。部。の。憑。り。に。依。り
さ。小。疲。勞。と。あ。わ。え。む。さ。ひ。ひ。け。り。あ。く。恙。あ。ら。再。會。と。祝。し。り。異。又。其。滿。祿。と
辭。し。去。く。と。る。と。生。活。は。暇。る。た。の。ま。た。の。ば。乃。の。賤。死。は。且。蓋。と。あ。く。衣。執。三。戎
嗜。向。り。入。親。も。も。た。せ。居。こ。う。う。み。拉。普。古。の。念。成。影。し。く。あ。り。の。か。信。め。ち

あ。ら。ね。ば。も。年。末。疎。遠。な。所。成。り。く。師。は。る。丹。滿。祿。は。恙。る。く。と。あ。ひ。い。ふ。い。ふ
さ。る。所。故。は。彼。地。と。去。く。い。つ。の。比。よ。り。と。の。か。は。後。信。ひ。ら。あ。や。さ。ら。な。く。い。と。い。ふ
秀。作。う。ち。息。吹。は。し。と。あ。り。又。こ。し。ら。の。り。成。後。と。和。殿。は。告。さ。さ。ら。い。と。不。審。あ。り
あ。ら。う。先。君。成。殿。社。は。成。廣。院。の。後。の。後。て。二。君。お。仕。と。あ。ひ。の。成。あ。り。あ。く
故。朋。輩。の。吹。拳。お。よ。る。と。朝。光。の。ゆ。結。城。使。者。を。遣。し。招。ふ。と。あ。り。く。さ。ら。も
志。が。く。辭。し。と。さ。ら。も。主。後。の。義。を。結。し。強。て。節。義。と。折。く。お。あ。ら。は。師。の。礼。を
ひ。く。持。持。せ。ん。と。い。つ。と。お。推。辭。さ。す。と。滿。祿。の。里。人。は。別。成。告。件。の。使。者。お。遣。し。て
結。城。の。館。へ。赴。せ。し。去。歲。の。春。弥。生。の。下。流。へ。志。が。あ。ら。は。吾。等。の。道。に。あ。り。と。い。ふ
氣。を。病。ら。づ。と。い。ふ。結。城。まで。は。由。考。ま。さ。ら。い。宿。る。その。夜。よ。り。と。あ。り。く。光
あ。ら。う。恐。は。被。知。は。赴。せ。駁。馬。の。骨。を。賣。り。ゆ。り。く。死。ん。と。あ。り。い。ふ。と。い
あ。ら。旅。館。お。留。ま。す。と。い。ふ。ゆ。り。く。辭。し。く。使。者。を。遣。し。信。終。成。結。の。ま。た。あ。ら。い。け。と。い

朝光^{ともみつ}乃^の由^ゆは^はも^もの^のり^りと^とく^くに^にあ^あら^らは^はる^るの^の扱^{さく}を^を
多^{おほ}く^くと^と茶^{ちや}料^{りょう}と^と賜^{たま}ひ^ひけれ^れば^ばま^まづ^づは^は小^こ医^い
療^{りょう}加^かる^る小^こ命^{いのち}救^{きう}ひ^ひま^まと^と盡^つぎ^ぎり^りけん^{けん}か^かて^て
春^{はる}ま^まだ^だ二^に伏^{ふく}の^の夏^{なつ}果^{はるみ}は^は比^ひや^やか^かと^とま^まま^まと^と歩^あ
行^ゆ自^じ由^{ゆう}ゆ^ゆる^ると^とま^まま^まも^も官^{くわん}途^との^の望^{ぼう}し^しら^ら
ね^ね小^こ結^{むす}城^{じやう}へ^へ赴^きく^くべ^べの^のあ^あら^らま^まと^とされ^れば^ばと^と
満^{まん}禄^{ろく}入^にふ^ふ別^{べつ}發^{はつ}告^こく^く出^でる^るの^の成^{せい}安^{あん}屋^や
還^{かへ}は^は面^{めん}ぶ^ぶせ^せい^いの^のり^りま^まも^もの^の里^{さと}を^をた^た
と^とろ^ろあ^あの^のべ^べま^まま^まと^とま^まま^まの^の古^{ふる}家^か購^{かひ}て^て
膝^{ひざ}或^{ある}容^{ゆる}ら^らま^まふ^ふる^るの^の及^{およ}び^びい^いら^らま^まと^とた^たた^たた^たた^た
し^しら^らる^るま^まの^のバ^バの^のと^と易^{やす}く^くと^とす^する^る其^{その}昔^{むかし}月^{つき}小^こ



あ^あら^らま^まと^とり^り和^わ殿^{でん}ハ^ハ又^{また}何^{なに}ホ^ホの^の故^こめ^めいと^と
送^{おく}死^し陸^{りく}奥^{おく}へ^へ今^{いま}忙^{いそ}しく^く赴^きく^くや^やら^らん^んと^と同^{どう}ひ^ひり^り
肩^{かた}根^ねうち^ちよ^よま^まれ^れハ^ハ阿^あ三^{さん}郎^{らう}ハ^ハ些^せ申^{まを}隠^{かく}さ^さま^ま
父^{ちち}豊^{とよ}六^{むつ}ハ^ハ寛^{かん}柱^{ちゆう}ハ^ハ慕^むむ^むと^と命^{いのち}を^を頂^{たか}せ^せし^しま^ま
母^{はは}ハ^ハ上^{かみ}総^{そう}の^のう^うえ^え落^おち^ちし^しと^とま^まま^まの^の為^{ため}ハ^ハ父^{ちち}報^{ほう}えん^{えん}
と^とく^く仇^{かたき}人^{ひと}の^の宅^{たく}地^ぢハ^ハ潜^{ひそ}び^ひひ^ひり^り船^{ふね}堀^{ほり}親^{おや}主^{ぬし}
後^{のち}次^{つぎ}慶^{けい}正^{せい}ハ^ハま^まま^まと^とま^まま^まの^の太^お細^ほふ^ふせ^せし^しま^ま
か^か木^きの^の作^{さく}造^{ぞう}く^く嘆^{なげ}賞^{しょう}し^しこ^こま^まま^まの^のま^まが^がん^ん
和^わ殿^{でん}我^{われ}相^あて^て賦^ふ取^とハ^ハ終^{はつ}了^{りょう}ハ^ハま^まま^まの^のま^まが^がん^ん
勇^{ゆう}悍^{たん}ハ^ハま^まま^まの^のま^まが^がん^ん
果^{はつ}し^しく^くぬ^ぬる^る大^{だい}義^ぎを^を就^{しゆう}せ^せり^り子^こと^とて^てま^まの

仇を斬りて賞をばらしたるなり。その邪正を賞はるるは、（いかに） 非はるるに非はるるなり。
 吏小只のあしき小判師とて和殿が往方を案ねるん且く隠し、（いかに） 定規定規入
 と真成の諭し、（いかに） 中て舎藏するなり。十日あまつま、（いかに） 淨内宿に一日信田秀徳の
 阿三郎が對ひてり。世を潜るるの貌と変名改更し、（いかに） 小和殿の元服の祝言をばら
 十七歳額髪いと似ける。げん黄道吉日とて小和殿の元服の祝言をばら。
 和殿復讐の爲に仲へこれ眼前なるゆあり。後ど勇敢藝術両るが上達するゆあり。
 せむせむ主後六人の勅敵を瞬息の間は移果さんや加以十日あまつま、（いかに） 同居
 の勤靜ニ為村落小成長高微賤の子ゆに肖せしけり。和殿の實小豊六が一子あり。
 泥小生、濁は流ぬ蓮の花砂石の中は、（いかに） 少年を成人の子と
 せむり、造物者の癖は、（いかに） 目録のゆゆや。とち我も、（いかに） 同ひくへ阿三
 郎の秀作が、（いかに） 中へ人然識るとの大きなるぬ。又感佩しく、（いかに） 忽地小和殿、師へ、（いかに）

親の工とて、（いかに） 況やとて信をりて吾と愛するこの翁小何言をう隠し、（いかに） 明と地と
 告ぐやと腹裏小尋思し、（いかに） ちを扇を笏小把り師の寔は織量卓一。其小親
 あまつまあるを名告も面するなり。向るこの夜も、（いかに） 匿果入の罪者
 實は、（いかに） 後四位伊豫守。旭將軍弐仲入実母、（いかに） 中三権既兼遠の愛女。世小
 志は勇婦。朝絵は某母の胎内はありつと、（いかに） 父の討も、（いかに） 和田義盛が子と
 生を、（いかに） 二才小あるゆも、（いかに） 母のろ共鎌倉ゆひひが、（いかに） 箇様、（いかに） 子のゆよりて母親
 朝絵の小伏し。某の乳母ある葉小抱とて、（いかに） 昔里へ、（いかに） 乳母夫婦を親と
 志す。村落は生月八実の親也。又別は養父ありとて、（いかに） 終るる。これとて、（いかに）
 志す。初より師のいちとて、（いかに） 相いぬ。由緒ありぬべく、（いかに） 同のゆとて、（いかに） 遍と
 及り。聰察睿悟いく、（いかに） 入るる。織量たる言豈た、（いかに） 及んや感と、（いかに） 小
 志す。あまつまあり。あまつま此度の厄難は、（いかに） 後の後難を、（いかに） ね親子、（いかに） 志す。



朝ひきのやま



大石山
射る

刀師、大御所

上三三三

大石山

定一が美邦食をよむるをまじくしるの事此二由懸念をあらわねば
 夏はひらひらくく。これの射肉と射る毎は化箭のきやく物状獲まど却若堂
 平々山越二三隻射する。一時夏はまじく焦燥。この箭はころり。ころり。と
 科然弓箭の負せつろを音知れぬ。彼此とたう。徘徊せり。浩然小野雞
 一隻列率は追まじく叢よりまじくと立一うが。まじやと矢のを掻掃ふ時夏は
 邦推並くよつ引固て標ど射る。志うととも美邦のこころ。こころ。射る中るが時
 夏着て必恨入獲む。とちげせ。うが窓を外の多ひ。けり。そのあひゆる。時夏が
 射る前への。翦み。も。ゆ。間まじく。小野雞はたちまち地。落ち。た。り。衣
 皆中と音散動を。落。し。た。か。く。件の野雞を引捕りて。まじく。時夏は遠
 ち。鳥。まじく。前。へ。て。満。面。は。笑。顔。含。み。吉。見。生。て。まじく。人。賭。ゆ。の
 某勝。矢柄。まじく。あ。ま。じ。く。紛。め。ゆ。の。あ。ま。じ。く。け。り。まじく。人。へ。こ
 後。負。ふ。前。城。板。と。まじく。と。ま。居。前。面。の。樹。蔭。も。ま。高。く。且。く。その。箭。を。板。と。ま
 する。野雞のゆ。まじく。と。禁。め。く。樹。間。を。あ。る。人。あ。る。皆。あ。る。と。まじく。人。と。ま
 その人身長六尺むら。眼は清く眉秀。箭骨逞。まじく。羊。の。肉。少。く。まじく。姿。貌。の。窈。窕
 とも。人。品。骨。相。懸。まじく。榜。の。甲。掛。脚。半。と。兩。刀。を。腰。に。帯。ゆ。あ。ま。じ。く。藤。の。弓。まじく。り
 この人は別入。朝夷三郎。美。秀。の。まじく。畢。竟。美。秀。まじく。合。一。と。まじく。まじく。ま
 物。倍。う。あ。ま。じ。く。卷。と。更。條。を。改。め。第。二。輯。の。首。と。まじく。抑。美。秀。の。傳。初。中。後。あ。ま
 この嶋。まじく。まじく。物。まじく。まじく。長。く。まじく。積。巻。と。まじく。ね。まじく。割。願。氏。を
 勞。まじく。まじく。全。本。と。まじく。の。まじく。壁。の。最。篇。と。まじく。張。月。又。今。茲。著。せ。り
 士。傳。の。類。も。まじく。取。請。四。方。の。着。官。局。と。まじく。結。ぶ。の。まじく。倦。ぶ。まじく。何。と。まじく。毎。日。嗣。と
 と。まじく。高。評。現。まじく。人。う。

朝夷巡島記全傳卷之五 終 (和)

